

DIPLO CAFE

フランス若者の反乱と大統領選

日時：11月20日（金）午後6時15分開始（8時半終了予定）
場所：なかのZEROホール西館 学習室B（JR中野駅南口徒歩8分）
講師：鶴飼哲さん（フランス思想・文学、一橋大学名誉教授）
コメンテーター：勝俣誠さん（経済学、明治学院大学名誉教授）
資料代：500円

勝俣誠氏



鶴飼哲氏



※ズームでの参加を希望される方は11/18までに diplojapon@gmail.com までお申し込みください。

この秋、フランスでは教育環境の改善や不公平是正を求める高校生による抗議運動が始まりました。1968年の「パリ5月革命」以来といわれるこの運動には、連帯する大学生や労組、「黄色いベスト運動」経験者らも加わり、全国規模の大きなmobilisationに拡大しています。

軍事予算の増大に伴い、教育予算の縮小が続けてきたフランス政府は高校生らの要求に応えることができず、「都市暴動」を宣言、一部で起きている略奪や破壊行為を理由に、ゴム弾や手榴弾を使っの暴力的な弾圧に乗り出し、8000人以上が身柄を拘束され、多数の負傷者を出しています。一部の都市では夜間外出禁止やデモ集会の禁止も発令されましたが、運動は10月22日現在収束しそうにありません。

政府やメディアは、この運動を急進左派政党「不服従のフランス（LFI）」が政治的に利用しているとし、破壊行為の責任をLFIに負わせようとしています。ところが、メディアバルト紙の調査報道（10月19日付）によって、LFIをスケープゴートにした権力による政治的策動の疑いが明らかになりました。

それでも、日本の新聞・テレビは相変わらず一部デモ参加者の破壊行為を繰り返し垂れ流し、高校生たちの要求や権力の策動についてきちんと報道しようとはしていません。

フランスでは来春、大統領選が行われます。世論調査では極右政党「国民連合（RN）」候補者のマリヌ・ルペン氏が支持率35%でトップを独走し、LFI候補者のジャン＝リュック・メランション氏が15～18%で2位に付けています。5月2日に行われる決選投票でルペン氏とメランション氏の一騎打ちになる可能性が見えてきました。LFIは10代、20代の若者の圧倒的な支持を集めています。このため、フランス政府やメディアが今回の抗議運動における破壊行為を利用してメランション氏の追い落としを図っているのではないかと疑いがあります。

一方、高校封鎖で始まった今回の抗議運動はイタリア、ベルギー、スペイン、ドイツなど欧州各国にも拡大しています。この運動が来春のフランス大統領選にどのような影響を与えるのか？さらには米国の「民主社会主義者（DSA）」運動や中間選挙、アジアや日本の若者の抗議運動などにいかなる影響を与えるのか？

Diplo caféではこうした視点やテーマに基づき、ル・モンド・ディプロマティーク紙の記事も踏まえて、多様な議論や意見を交わしたいと思います。

主催：ル・モンド・ディプロマティーク日本語版の会

※終了後午後8時半よりJR中野駅前のピアンタ中野南口店で懇親会を開催します。参加費3000円。